

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 41
Summer
2013

〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆新教授の挨拶(山田昌和)<1>
- ◆角膜グループの活動(中島史絵)<2~3>
- ◆アイバンクの紹介(明石優美)<3>
- ◆イベント情報<3>
- ◆平成25年度外来表<4>
- ◆新入局者の自己紹介<4>
- ◆フォトアルバム<4>
- ◆編集部からのコメント<4>

<執筆者: 括弧に明記 production: 岡田アナベルあやめ、堀江大介、仲嶋みずき>

新教授の挨拶(山田昌和)



山田 昌和

本年4月から、杏林大学の臨床教授を拝命しました。杏林アイセンターでは全くの新人であり、慣れないことばかりで右往左往しておりますが、しばらくの間、ご容赦頂きますようお願い申し上げます。

杏林アイセンターの臨床レベルの高さには定評があります。西東京の中核病院として広く大きな医療圏を支えているだけに、外来はいつも患者さんで溢れていますし、網膜硝子体・眼炎症などの分野では遠方から数多くの患者さんが受診されています。杏林で最初に外来をしたときに、不慣れなために午後7時までかかってしまいました。患者さんを待たせ過ぎたと反省したのですが、この外来終了時間、ここでは普通のようなのです。外来に限らず、病棟でも手術室でもスタッフ、医員、研修医、皆が朝早くから夜遅くまで忙しく働いていることに感心させられます。私も一日でも早く、このペースに慣れて、他のスタッフに負けられないようにしたいと思っています。

私の専門領域は角膜を中心とした前眼部疾患であり、

アイセンターがこれまでよりもっと広い領域の眼疾患に対応できるよう幅を拡げることが私に与えられた役割と考えています。西東京には角膜移植を行う施設が少ないこともあり、前眼部領域を発展させていくことで、専門的医療の充実と地域医療への貢献を図っていく所存です。現在、眼感染症治療用の特殊製剤の申請やアイバンクの整備などを行っております。角膜移植患者の待機期間も長くなっていますので、輸入角膜を用いた手術体制も可能な限り早く整えたいと考えています。地域の先生がたに信頼され、多くの患者さんを任せてもらえるように少しずつでも実績を積み重ねていきたいと思っておりますので、どうか宜しくお願いたします。

最新の眼科医療を実践することがアイセンターの最も重要な役割ですが、大学病院ですので教育、研究といった面も重要な機能です。教育、研究面でも多少なりとも貢献するとともに、平形教授をはじめとするスタッフ全員と共同して、アイセンターの更なる発展に励んでいく所存ですので、どうか宜しくお願申し上げます。

略歴

- 1986年 慶應義塾大学医学部眼科研修医
- 1989年 国立栃木病院医員
- 1993年 米国Duke大学アイセンター研究員
- 1995年 慶應義塾大学医学部眼科助手、講師
- 2003年 国立病院機構東京医療センター感覚器センター部長
- 2013年 杏林アイセンター臨床教授

